



お の で ら ひ か る

## 小野寺 光

### ▶ジャンル

声楽／バスバリトン

### ▶所属マネジメント

公益財団法人日本オペラ振興会

〒151-0061

東京都渋谷区初台2-5-8 豊国ビル102

TEL：03-6721-0995 FAX：03-6721-0997

### ▶担当マネージャー：

菅 若菜 suga@jof.or.jp

### ▶アーティスト所在地

神奈川県川崎市

### ▶アーティスト出身地

岩手県盛岡市

## プロフィール

### 音楽研鑽歴

岩手県立不来方高等学校普通科芸術学系音楽コース声楽専攻卒業

昭和音楽大学音楽学部声楽コース卒業。同大学院音楽研究科修士課程音楽芸術表現専攻声楽（オペラ）修了。

第3回立石信雄海外研修奨学金、昭和音楽大学下八川圭祐基金、同大学同侪会海外研修奨学金を得て、イタリアに留学。

第45回イタリア声楽コンクール・ミラノ大賞受賞。

2017年イタリア・ストレーザ国際声楽コンクール第1位。

### 音楽活動歴

2014年昭和音楽大学オペラ「夢遊病の娘」のロドルフォ伯爵でオペラデビュー。同学オペラでは、15年「フィガロの結婚」フィガロ、17年「ドン・ジョヴァンニ」レポレッロに出演し、同役は上海音楽院との交流公演として上海でも出演し好演を得る。18年「ファルスタッフ」タイトルロール、22年「フィガロの結婚」フィガロ、23年「愛の妙薬」ドゥルカマラーに出演。また、17年イタリア、マルティーナ・フランカのヴァッレ・デイトリア音楽祭にて「ジャンニ・スキッキ」タイトルロール及びシモーネに出演。藤原歌劇団には、19年「ランスへの旅」シドニー卿、21年「フィガロの結婚」フィガロ、「ラ・ボエム」コッリーネ、22年「コジ・ファン・トゥッテ」ドン・アルフォンソ、23年「劇場のわがままな歌手たち」ブローコロ、25年「ファルスタッフ」ピストーラで出演。またベルカントオペラフェスティバル イン ジャパンでは、「フランチェスカ・ダ・リミニ」グイード、ロッシーニ「小荘厳ミサ曲」のバスソロ、「ジュリエッタとロメオ」ロレンツォで出演するなど、国内外で活躍を始めている新進バス・バリトン。

藤原歌劇団団員。男声ヴォーカルユニット『URANO』メンバー。昭和音楽大学非常勤講師。

## 自己アピール

中学3年の夏、僕は6歳から打ち込んできた柔道を辞める決心をしました。というのも、膝に水が溜まるようになり、これ以上柔道を続ける事が出来ない身体になってしまった為です。そこで、中学を卒業したら吉本興業の門を叩いてお笑い芸人を目指すか、あるいは高校で『声楽』を勉強するか、どちらかの道しか残されていない、と両親に相談をしました。その時の両親の何とも言えない表情を、僕は一生忘れないと思います。父親は少し固まった後、『声楽の勉強って何をするんだ…?』と僕に聞きました。そんな事、僕の方こそ知るわけがありませんでした。

僕は小さい頃からとにかく歌うことが大好きでした。毎晩お風呂場で大きな声で歌う所為で、近所からクレームがきたこともあります。結局、歌が『好き』というだけで、音楽の道に進む決心をしました。そして、当時県内で唯一音楽を専門的に勉強する事が出来るコースがあった、岩手県立不來方高等学校に入学しました。高校に入学してからは、触れたこともないピアノと、楽典やソルフェージュといった、聞いた

こともない分野の勉強に取り掛かりました。これまで柔道だけに打ち込んできた小野寺選手（柔道初段）と、『声楽』という得体の知れない存在との戦いは、ここから始まったのでした。

何度も敗北を経験しながら、それでも歌う事をやめなかった小野寺選手は、歌が好きというだけで、大学を卒業する頃にはオペラ歌手を目指すようになりました。大学院を修了してイタリアに渡り、自分の『好き』がどれだけ通用するのか、異国の地でがむしゃらに挑戦しました。

何度も言いますが、僕は歌う事が大好きです。もう一つの『好き』であった、お笑い芸人という道を歩む事はもうないかもしれませんが、もしかしたらお笑い芸人の方々や舞台上でやっている事と、オペラ歌手として僕が舞台上でやっている事は、ある意味同じ事なのかもしれません。人の心に何かを届けたい、笑顔で家に帰っていただきたい。そして、僕の歌を聴いた子供達には、是非お風呂場で大きな声で歌を歌ってもらえたら幸せです。

## この事業でできること、挑戦してみたいこと

僕がまだ柔道少年だった小学生の頃、鑑賞教室の為に、県内出身のとあるピアニストの方が来校した事がありました。小学生の僕にとって、ただのただ広い空間でしかなかった体育館が、ピアノの演奏が始まるとあっという間に『劇場』に様変わりした事を、今でも鮮明に覚えています。音楽のおの字も知らない小学生の僕に『音楽って楽しい!』『ピアノの音って凄い!』と、強烈なインパクトを与えてくれたあの鑑賞教室は、大成功だったのではないかと思います。

このように、アウトリーチの活動を通して、クラシック音楽に触れた事のない方も、もともと好きな方も『もっと聴きたい!』『また聴いてみたい!』と、クラシック音楽の『おかわり』がしたくなったら大成功だと思えます。

クラシックという言葉から、なぜか少しだけ緊張感を感じ、敷居の高いイメージを持ってしまう方が多いため、まず私が一番に心掛けたいのは、『気楽』に『楽しく』聴くことができるようなプログラム構成です。そしてさらに、その『楽

しさ』の中でオペラの持つ『熱さ』や『魅力』を伝えることが出来るように工夫をしたいと思えます。

具体的に、私の声種であるバス・バリトンは、オペラでは喜劇的な役柄がとて多く、そういった役柄の特徴として、イタリア語の『早口の歌唱』が挙げられます。イタリア語の早口は、たとえ意味が分からなくとも、なんとなく聴いているだけで『凄い!面白い!』と思ってしまうものばかりです。そういった曲(アリア)をレパートリーとして準備できるのは、バス・バリトンという声種ならではだと思います。

また、コンサートの機会を頂いた場合も同様に、『オペラを気楽に楽しく』をモットーにプログラムを構成したいと思います。クラシックなんか興味がない、オペラなんか観たことがない、そういった方こそ僕のコンサートに足を運んでいただきたいです。僕の歌がキッカケで色々なジャンルのクラシックに興味を持っていただき、別の歌手の歌も『おかわり』したくなったら、大成功だと思えます。

## 演奏可能プログラム

### 日本歌曲

文部省唱歌：ふるさと  
山田耕作：赤とんぼ、待ちぼうけ  
中田喜直：夏の思い出  
瀧廉太郎：荒城の月、花  
平井康三郎：ふるさとの  
宮沢賢治：星めぐりの歌 など

### 歌曲

トスティ：理想の人、君なんかもう  
ドニゼッティ：結婚万歳  
ベッリーニ：喜ばせてあげて、フィリッデの悲しい姿よ  
ドナウディ：ああ、愛する人の など

### オペラアリア

モーツァルト：《フィガロの結婚》より”もう飛ぶまいぞこの蝶々”  
《ドン・ジョヴァンニ》より”奥様、これが恋人のカatalogです”  
ロッシーニ：《セヴィリアの理髪師》より”わしのような医者に向かつて”  
ドニゼッティ：《愛の妙薬》より”お聞きください、村人の皆さん”  
《ドン・パスクワレ》より”天使のように美しい”  
ヴェルディ：《ドン・カルロ》より”ひとり寂しく眠ろう”  
《シモン・ボッカネグラ》より”衰れなる父の胸は”  
プッチーニ：《ラ・ボエーム》より”古い外套よ”  
ビゼー：《カルメン》より”闘牛士の歌”  
など